

4、単元指導計画 全16時間(本時4/16)

		グリーンコース	ブルーコース	オレンジコース		
1	ねらい	遊園地の乗り物に乗っている絵を見て、図やおはじき、ブロックなどを用いることを通して、「1つ分の大きさのいくつ分」という意味を理解する。	遊園地の乗り物に乗っている絵を見て、図やおはじきなどを用いることを通して、「1つ分の大きさのいくつ分」という意味を理解する。	遊園地の乗り物に乗っている子どもたちの数を絵を見ながらおはじきを動かすことを通して、「1つ分の大きさのいくつ分」という意味を理解する。		
	問題	カートには全部で何人乗っているでしょう。				
	課題	カートに乗っている人の数を色々な方法で数えよう。	カートに乗っている人数を図を使って数えよう。	カートに乗っている人の数をおはじきを使って数えよう。		
	評価規準	<知識・理解>「基準となる大きさのいくつ分」の意味が分かる。				
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートに乗っている人の数を数える。 ・カートに乗っている人の数を数える。 ・2, 4, 6・・・で数える。 ・2人ずつ5台分で10人という数え方を知る。 ・おはじき、絵、たし算をヒントカードで確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ乗り物に乗っている人の数を数え、ポートに乗っている人の数が違うことに気付くようにする。 ・同じ数ずつ乗っていることに気付くようにする。 ・人ずつ 台分で 人の言い方ができるように、「同じ人数」と「いくつ分」に注目するようにする。 ・ポートは「人ずつ 台分で 人」と言えないことに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートに乗っている人の数を数える。 ・おはじきやたし算を使って考える。 ・カートに乗っている人の数を数える。 ・絵にかいて考える。 ・2・4・6・・・と数える。 ・2人ずつ5台分で10人という数え方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのたし算が正しくできるように繰り返しに気を付けるようにする。 ・の中に人数分の を書いて考えるように指導する。 ・「何人ずついますか?それが何台ありますか?」と問い、1つ分の大きさのいくつ分という数え方に気付くようにする。 ・人ずつ 台分で 人という言い方ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面かを話し合う。 ・ポートに乗っている人の数をおはじきを使って数える。 ・ポートは「4+3+2」で求めることが分かる。 ・カートに乗っている人の数を数える。 ・カートは同じ人数ずつ乗っていることに気づく。 ・2とびで数えたり、5組分の 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の上におはじきをのせ、プリントに移動させる。 ・ポートは乗っている人の数が違うことに気付かせる。 ・「全部」の言葉に注目させる。 ・ポート3隻に乗っている人数をたし算で求めさせる。 ・カートは「1台に2人ずつ5台分あるので10人になる」ことを確認する。
	同じ数ずつの時は、「何人のいくつ分」で数えることができる。		同じ数ずつの時には、「何人のいくつ分」で数えることができる。		同じ数ずつの時には、「何人のいくつ分」で数えることができる。	
2	ねらい	遊園地の乗り物に乗っている絵を見て、図やおはじき、ブロックなどを用いることを通して、「1つ分の大きさのいくつ分」という意味を理解する。	遊園地の乗り物に乗っている絵を見て、図やおはじきなどを用いることを通して、「1つ分の大きさのいくつ分」という意味を理解する。	遊園地の乗り物に乗っている子どもたちの数を絵を見ながらおはじきを動かすことを通して、「1つ分の大きさのいくつ分」という意味を理解する。		
	問題	ジェットコースターにのっている人数は全部で何人でしょう。				
	課題	ジェットコースターに乗っている人の数をたくさんの方で数えよう。	ジェットコースターにのっている人の数を数える方法を考えよう。	ジェットコースターに乗っている人の数をおはじきを使って数えよう。		
	評価規準	<知識・理解>全体の大きさを基準となる大きさのいくつ分と考える方法が分かる。				
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェットコースターとコーヒーカップに乗っている人の数を調べ、「 」に少しずつ 台分で 人で表す。 ・おはじきや絵で確認をする。 ・鉛筆問題、 で練習をする。 ・発展問題『身の回りで、何こずついくつ分と表せる同じ数ずつのときには、「何人のいくつ分」ということができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらの乗り物も、同じ人数ずつ乗っているから、表せられることに気付くようにする。 ・おはじきや絵を見ながら「人ずつ 台分」と言えるようにする。 ・発展問題では、「何こずつ、いくつ分」で表せそうなものに気付かせ言えるようにする。(蛍光灯2本ずつ6つ分。ロッカー3こずつ4つ分。グループ4人ずつ6つ分。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェットコースターに乗っている人数を数える。 ・絵にかいて考える。 ・5人ずつ3台分で15人と数える。 ・他の乗り物に乗っている人の数を数える。 ・人ずつ 台分で 人という考え方で問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を思い起こし、ジェットコースターの人数を数えるようにする。 ・の中に人数分の を書いて考えるように指導する。 ・人ずつ 台分で 人という言い方ができるようにする。 ・他のいろいろな乗り物についても、人ずつ 台分で 人という考え方ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面かを話し合う。 ・ジェットコースターやカップに乗っている人の数をおはじきを使って数える。 ・1, 2, 3, 4・・・で数える。 ・5, 10, 15・・・で数える。 ・教科書の絵で、同じ数ずつのものをさがす。 ・他の乗り物に乗っている人の数をおはじきを使いながら同じ数ずつのときには、「何人のいくつ分」と言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを用意し、おはじき操作を行う。 ・言葉と数を合わせる。 ・1台に何人乗っているか、それが何台あるかを確かめる。 ・5とびで数える。
	同じ数ずつのときには、「何人のいくつ分」ということができる。		同じ数ずつのときには、「何人のいくつ分」ということができる。		同じ数ずつのときには、「何人のいくつ分」ということができる。	「1つ分の大きさ」とそれが「いくつ分」あるかを意識しておはじきを操作する。

3	ねらい	みかんの絵を見て、個の $\frac{1}{3}$ を、 \times と乗法を使って表すことを通して、「1つ分」と「いくつ分」が明確になるよさが分かる。	みかんの絵を見て、個の $\frac{1}{3}$ を、 \times と乗法を使って表すことを通して、「1つ分」と「いくつ分」が明確になるよさが分かる。	みかんの絵を見て、この $\frac{1}{3}$ を「 \times 」と乗法を使って表すことを通して、「1つ分」と「いくつ分」が明確になるよさが分かる。		
	問題	みかんは全部でいくつあるでしょう。				
	課題	みかんの数を図にかいて考えよう。	みかんの数を図にかいて考えよう。	みかんの数をおはじきを使って考えよう。		
	評価規準	<表現・処理>「 \times 」の記号や「かけ算」の用語の意味がわかる。				
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> みかんの個数を調べ、「5こずつ3つ分で15こ」と表す。 5×3 のかけざんの表し方を知る。 ソフトクリームを2 \times 4と表す。 5×3、2×4 をかけざんと言ったことが分かる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個のいくつ分は、\times (いくつ分) のかけ算の式で表すことができる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> おはじきや絵をかいて、1袋に5こずつ3つ分であることを気付くようにする。 \times の書き方の指導をする。 こずつ $\frac{1}{3}$ と \times の順序に気を付けるようにする。 「2こずつ4つ分だから 2×4」と言えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> みかんの数をおはじきや絵を使って考える。 たし算で考える。 自分の考えをノートに書く。 ペア交流し、お互いの意見を聞き合う。 $5 \times 3 = 15$ という式で表せ、5かける3は15と読むことを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">\times の書き方を覚える 個のいくつ分は、\times (いくつ分) のかけ算の式で表すことができる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 個の $\frac{1}{3}$ (いくつ分) という考え方ができるようにする。 の中に、みかんの数だけおはじきを置いたり、\times を書いたりする作業ができるようになる。 自分の考えをペアの人に、分かりやすく伝えるように声をかける。 個のいくつ分は、\times で表せることを理解できるようにする。 読み方や書き方も、期間巡回を行い、個別指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を読み、内容について話し合う。 みかんが1袋に何個入っているかみつける。 5個の3つ分であることをとらえ、全部で15個であることが分かる。 「$5 \times 3 = 15$」の式で表すことができ、「5かける3は15」と読むことを知る。 かけ算にあったおはじき操作をする。 「\times」の書き方を覚える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個の $\frac{1}{3}$ は、「\times」のかけ算の式で表すことができる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> プリントを用意し、おはじき操作を行う。 みかんの数は1つ分が「5」、それが「3」あることを確認。 全部の数はおはじき操作で求める。(加法も認める) 「5(個ずつの)3(つ分)は15(個)」が「$5 \times 3 = 15$」となることを繰り返す。 「3つ」と「3つ分」の違いをおはじき操作で確認する。
4 本時	ねらい	ドーナツの絵から、 3×4 の立式が確実にでき、図や絵やおはじき、ブロック、たしざんなど色々な方法で考えを通して、 3×4 の答えはたし算(同数累加)で求められることができる。	ドーナツの絵から、 3×4 の立式が確実にでき、図とたしざんで考えることを通して、 3×4 の答えはたし算(同数累加)で求められることができる。	ドーナツの絵から、 3×4 の立式が確実にでき、おはじき操作で考えることを通して、 3×4 の答えはたし算(同数累加)で求められることができる。		
	問題	ドーナツが3個ずつ入ったパックが4つあります。全部で何個でしょう。				
	課題	3×4 の答えの求め方を色々な方法で考え説明しよう。	3×4 の答えの求め方を考えよう。	3×4 の答えの求め方をおはじきで考えよう。		
	評価規準	<表現・処理>被乗数を乗数の数だけ累加する方法で、積を求めることができる。				
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> ドーナツの数を式に表す。 ドーナツ全部の数を求める式を書く。 3×4 の答えは $3 + 3 + 3 + 3 = 12$ で求めることを知る。 かけざんの答えは、1つ分の数をいくつ分だけたせばいい。 かけ算の答えは、1つ分の数をいくつ分だけたせばいい。 <ul style="list-style-type: none"> 練習問題をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 3こずつ4つ分から 3×4 を立式することをおさえるようにする。 $3 + 3 + 3 + 3$ の計算でのつまずきに対して、個別指導をする。 練習問題で 3こずつ 4つ分だから を 回したことが分かるようにし、式の順序に気を付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ドーナツの数を表す式を立てる。 絵に表して考える。 たし算で考える。 交流して考えを確かにする。 $3 \times 4 = 12$ $3 + 3 + 3 + 3 = 12$ で答えが求められる。 かけ算の答えは、1つ分の数をいくつ分だけたせばいい。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を思い起こし、同じ数ずついくつ分であることを気付くようにする。 かけ算の式で表せるようにする。 の中に \times を書いて考える。(ヒントカードの用意) たし算で考えるようにする。 たし算の方法は自由に考えられるようにする。 $3 + 3 + 3 + 3$ で答えが求められることを確認する。 個別指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を読み、内容について話し合う。 ドーナツが1パックに3個入っていてそれが4パックあることをつかむ。 おはじきを並べドーナツは3個の4つ分であることが分かる。 式は「3×4」 おはじきを使って考える。 「3×4」は加法で求める <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">かけ算の答えは、1つ分の数をいくつ分だけたせばいい。</div> <ul style="list-style-type: none"> 練習問題を式に書いて答え 	<ul style="list-style-type: none"> プリントを用意し、おはじき操作を行う。 どのパックにもドーナツが3個ずつ入っていることを確かめる。 かけ算の式とおはじきを並べる操作を常に関連付ける。 隣同士でやり方を言い合う。 ノートに「$3 + 3 + 3 + 3 = 12$」の式を補助計算として書かせる。

5	ねらい	テープ図から、基にする量のいくつ分を「ばい」で表すことを理解し、その大きさを乗法の式に表すことができる。					
	問題	青いテープが2つ分、3つ分の長さは何cmでしょう。					
	課題	「いくつ分」というときの求め方を考えよう。					
	評価規準	<知識・理解> 「～倍」の用語が分かり、乗法の場面を式に表すことができる。					
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	
	<ul style="list-style-type: none"> ・3cmの2つ分、3つ分の長さを表す式を考える。 ・3cmの2つ分を3cmの2倍の長さと言うことが分かる。 ・3cmの3つ分は「倍」を使うとどう言い表せるか考える。 ・3cmの3倍で3×3 $3 + 3 + 3 = 9$を理解する。 ・3cmの1つ分は1倍だと分かる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 1つ分、2つ分、3つ分のことを「1ばい」「2ばい」「3ばい」と表すことができる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・3×2 $3 + 3 = 6$と 言う立式から、3の2つ分を「1倍」という間違いに気付くようにする。 ・3×3 $3 + 3 + 3 = 9$と 言う立式から、3の3つ分を「2倍」という間違いに気付くようにする。 ・練習問題はかけざんの式も答えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3cmのテープの2つ分、3つ分の長さを3×2、3×3と立式する。 ・絵に書いて考えをノートに書く。 ・3cmの2つ分を3cmの「2ばい」と言い、$3 \times 2 = 6$とかけ算で求められることを知る。 ・3cmが2つ分 3cmの2ばい $3 \times 2 = 6$と乗法の式で表せることを確認しながら説明する。 ・個別指導にあたる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 1つ分、2つ分、3つ分のことを「1ばい」「2ばい」「3ばい」と表すことができる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・テープ図の準備をする。 ・3×2、3×3の立式が正しくできていることを確認する。 ・もとにする量(3cm)のいくつ分()を3cmのばいと表現することを理解できるようにする。 ・3cmが2つ分 3cmの2ばい $3 \times 2 = 6$と乗法の式で表せることを確認しながら説明する。 ・個別指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テープを用い、場面を明確にとらえる。 ・3cmの2つ分を3cmの「2ばい」と言い、式は「3×2」でかけ算で求めることができることを知る。 ・答えは「$3+3$」で求めることが分かる。 ・3cmの3倍の意味と求め方が分かる。 ・3cmの1つ分は「1ばい」と言うことが分かる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 1つ分、2つ分、3つ分のことを「1ばい」「2ばい」「3ばい」と表し、かけ算で答えを求めることができる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントにテープを張っていく。 ・3cmのテープをいくつかが用意する。 ・6cm、9cmのテープを用意する。 ・$x =$ の考え方が使えることに気づく。 ・1つ分のことを「1倍」ということ ・3×3は「$3+3+3$」で求められているか確かめる。 	
6	ねらい	秋祭りの場面から、基にする量(1つ分の大きさ)とその「いくつ分」かに注目して、かけ算の式に表すことができる。					
	問題	同じ数ずつのものをさがして、かけ算の式に書きましょう。					
	課題	絵を見てかけ算で表せるものを見つけ、かけ算の式を作ろう。					
	評価規準	<関心・意欲・態度> 「1つ分の大きさ」「いくつ分」「全体の大きさ」を具体的な場面からとらえ、式にすることができる。					
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	
	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見てかけざんが使えるものと使えないものを判断する。 ・「こずつ 公分」と式を かけざんの式を作るには、1つ分の量と、それがいくつ分あるかを考えればよい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> かけ算の式を作るには、1つ分の量と、それがいくつ分あるかを考えればよい。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りからかけざんのなる場面を探して、式に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水風船、アイスクリームのように「1つ分の大きさ」が違うものはかけざんが使えないことに気付くようにする。 ・答えはたしざんの式にして求めるようにする。 ・第2時の発展問題で出てきたもの(蛍光灯、ロッカー、グループの人数)を式に表すようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ数ずつのものをさがして、そのいくつ分(何倍)であるかを考え、かけ算の式に表す。 ・ノートに表した式について個の 分だから、個。式では $x =$ と話せるように練習する。 ・ペアで交流し、考えを聞き合う <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> かけ算の式を作るには、1つ分の量と、それがいくつ分あるかを考えればよい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算の式に表せるものと、表せないものを区別できるようにする。 ・かけ算の式に表せるものは、「同じ数ずつ」であることをおさえる。 ・正しく立式できているかを確認する。(個別指導) ・話し方の見本を掲示しておく。 ・個の 分だから 個。$x =$ と根拠を確かにして立式できるようにする。 ・個別指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面をとらえる。 ・かけ算が使えるものと使えないものを判断する。 ・かけ算が使えるものについて式を考える。 ・「1つ分の数はいくつか」「いくつ分あるか」 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> かけ算の式を作るには、1つ分の量と、それがいくつ分あるかを考えることができる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「1つ分の大きさ」がはっきり分かるようにつけてある水色枠に注目させる。 ・ヨーヨーとソフトクリームは枠によって数が違うことに気づかせ、かけ算の式には表せないことを確かめる。 ・たこ焼き「8個ずつ、2つ分、16個」、ピー玉「6個ずつ、4つ分、24個」など声に出しておはじき操作をすることで「1つ分の大きさ」「いくつ分」「全体の大きさ」をとらえさせる。 	

7	ねらい	ケーキの絵から、「1つ分」の大きさが2のとき、その「いくつ分」かについて全体の数を求めることを通して、2の段の九九を構成することができる。また、「九九」の用語を知り、意味が理解できる。					
	問題	ケーキを1皿に2個ずつ乗せます。6皿分ではいくつでしょう。					
	課題	かけ算の式と図をかき、順番に答えを求めよう。			かけ算の式を書き、おはじきを使って順番に答えを求めよう。		
	評価規準	<知識・理解>同数累加で2の段の乗法九九を構成すればよいと考えることができる。			<知識・理解>2の段の構成の仕方が分かる。		
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ケーキの数を求める式と絵、答えを出すたしざんを考える。 ・1皿分から6皿分までのケーキの数を求める式と絵、答えを出すたしざんを考える。 ・7皿～9皿のケーキを7の数を数える。 ・2×6を「二六12」と言い、これを「九九」と言うことを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 2×6「にろく12」のことを九九と言う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・1皿分ずつ増えていく様子が分かるように、ノート書き方を指導する。 ・2ずつ増えたり減ったりしていくことに気付くようにする。 ・理解が十分でない場合、絵を書いたり、おはじきで考えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2×6と立式する。 ・一皿から順にケーキの数を考えていく。 ・絵に書いて考える。 ・同数累加のたし算で考える。 ・7皿、8皿、9皿のときのケーキの数を考える。 ・2×6の答えは「二六(にろく)12」と言い、これを<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">2×6「にろく12」のことを九九と言う。</div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の絵を黒板に提示し、1つ分の大きさが2であることに気付くようにする。 ・皿が1枚ずつ増えていくごとに、2ずつ増えることに気付けるようにする。 ・絵 たし算の式 かけ算の式とまとめるプリントを準備する。 ・7皿のときには、2×6の答えに「2」たせばいいことに気付けるようにする。 ・「九九」の意味を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面をとらえる。 ・6皿分のケーキの数を求める式を書く。「2×6」 ・1皿分から6皿分までのケーキの数をおはじきを使って順に求める。$2 \times 1 = 2$ $2 \times 2 = 2 + 2 = 4$ ・数の求め方も発表する。 ・7皿分から9皿分のケーキの数も求める。 ・2×6の答えは「二六(にろく)12」と言い、これを<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">「九九」ということを知る 2×6「にろく十二」のことを九九と言う。</div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケーキの代わりにおはじきを用い、実際に皿に載せる。 ・おはじきと式、求め方を関連付けて考えるように一つ一つ確かめる。「1皿分は2個の1つ分」「2皿分は2個の2つ分」など、声に出して言う。 ・2とびで求めてもよしとする。 	
8	ねらい	2の段の乗法九九の表を見て、2の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えることができたり、適用したりすることができる。					
	問題	2の段の九九を声に出して言いましょう。					
	課題	2の段の九九を早く、正しく覚えよう。					
	評価規準	<表現・処理>乗法の決まりのよさが分かり、進んで用いようとする。					
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「2の段の九九」という用語を知る。 ・2の段の九九の唱え方を覚える。 ・ペアで九九の唱え方の確認をする。 ・アレイ図の使い方を知る。 ・練習問題をする。 ・2の段を唱える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習から、「1つ分の大きさが2」の時の「2の段」と言うことを指導する。 ・「が」は1桁の時だけ入れることに気付くようにする。 ・順番に、逆から、ランダムに唱えられるようにする。 ・アレイ図を見ながら唱えることもできるようにする。 ・立式で5×2にならないよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2の段の九九をカードに書いて九九を唱える。 ・順番に唱えたり、逆さに唱えたりばらばらに唱えたりする。 ・ペアになって聞き合う。 ・2の段を使った問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2の段の九九の表を準備する。 ・何度も声に出して正しく唱えることができるようにする。 ・つまづいている児童に個別に指導にあたる。 ・順番だけでなく、逆にも言えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「2の段九九」という用語を知る。 ・2の段九九の唱え方を覚える。 ・担任のカードを見て答える。 ・自分の九九カードを用いて、2の段九九の練習をする。 ・練習問題をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「が」を入れる場合と入れない場合があることに気づかせる。 ・何度も声に出して、正しく唱えることができるようにする。 ・始めは順番に唱える。次は逆から、そしてランダムに練習する。 ・隣同士で練習する。 	

9	ねらい	クッキーの絵から、「1つ分」の大きさが5のとき、その「いくつ分」かについて全体の数を求めることを通して、5の段の九九を構成することができる。					
	問題	クッキーが1袋に5個入っています。7袋ではいくつでしょう。					
	課題	かけ算の式と図をかき、5の段の九九を作ろう。			かけ算の式を書き、おはじきを使って5の段の九九を作ろう。		
	評価規準	<考え方>同数累加で5の段の乘法九九を構成すればよいと考えることができる。					
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	
	<ul style="list-style-type: none"> クッキーの数を求める式と絵、答えを出すたしざんを考える。 1袋分から7袋分までのクッキーの数を求める式と絵、答えを出すたしざんを考える。 8ふくろ、9ふくろのときのクッキーの数を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> $5 \times$ のかけざんでは 1 つふえると答えは 5 ずつふえる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 1袋分ずつ増えていく様子が分かるように、ノート書き方を指導する。 5ずつ増えたり減ったりしていくことに気付くようにする。 練習問題で理解が十分でない場合、絵を書いたり、おはじきで考えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 5×7 と立式する。 1ふくろから順にクッキーの数を考えていく。 絵に書いて考える。 同数累加のたし算で考える。 8ふくろ、9ふくろのときのクッキーの数を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> $5 \times$ の式の 1 が1つふえると答えは 5 ずつふえる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 問題の絵を黒板に提示し、1つ分の大きさが5であることに気付くようにする。 ふくろが1つずつ増えていくごとに、5ずつ増えることに気付くようにする。 絵 たし算の式 かけ算の式とまとめるプリントを準備する。 8ふくろのときには、5×7 の答えに「5」たせばいいことに気付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面をとらえる。 1袋5個入り、7袋分のクッキーの数を求める式を書く。 「5×7」 1袋分から7袋分までのクッキーの数をおはじきを使って順に求める。 数の求め方も発表する。 8袋分と9袋分のクッキーの $5 \times$ の式の 1 が1つふえると、答えは 5 ずつふ 	<ul style="list-style-type: none"> クッキーの代わりにおはじきを用いる。 おはじきと式、求め方を関連付けて考えるように一つ一つ確かめる。「5個の1つ分」「5個の2つ分」など、声に出して言う。 5とびで求めてもよしとする。 $5 \times 1 = 5$ $5 \times 2 = 5 + 5 = 10$ $5 \times 3 = 5 + 5 + 5 = 15$ <p style="text-align: center;">.....</p>	
10	ねらい	5の段の乘法九九の表を見て、5の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えることができたり、適用したりすることができる。					
	問題	5の段の九九を声に出して言いましょう。					
	課題	5の段の九九を早く、正しく覚えよう。					
	評価規準	<表現・処理>5の段の乘法九九を唱えることができる。					
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	
	<ul style="list-style-type: none"> 「5の段の九九」という用語を知る。 5の段の九九の唱え方を覚える。 ペアやグループで九九の唱え方の確認をする。 アレイ図を見ながら唱える。 練習問題をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習から、「1つ分の大きさが5」の時を「5の段」と言うことを指導する。 「が」は1桁の時だけ入れることに気付くようにする。 順番に、逆から、ランダムに唱えられるようにする。 「1皿に $こ$ ずつ $皿$」が言えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 5の段の九九をカードに書いて九九を唱える。 順番に唱えたり、逆さに唱えたりばらばらに唱えたりする。 ペアになって聞き合う。 5の段を使った問題を解く。 5×4 になる問題を作る。 5×6 など、いろいろな問題作りに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 5の段の九九の表を準備する。 何度も声に出して正しく唱えることができるようにする。 つまずいている児童に個別に指導にあたる。 順番だけでなく、逆さにも言えるようにする。 1つ分の大きさが「5」、それが4つ分という問題が作られているか確認する。 つまずいている児童には絵をかいてみるように声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「5の段九九」という用語を知る。 5の段九九の唱え方を覚える。 担任のカードを見て答える。 自分の九九カードを用いて、5の段九九の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> 練習問題をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「が」を入れる場合と入れない場合があることに気づかせる。 何度も声に出して正しく唱えることができるようにする。 始めは順番に唱える。次は逆から、そしてランダムに練習する。 隣同士で練習する。 「1つ分の数」「いくつ分」を意識させる。 教科書の絵を見て、みかんが1皿に5個ずつ、4皿(4つ分)あることを確かめる。 	

11	ねらい	ビンゴゲームを通して、2の段、5の段の乗法九九を速く正しく唱えることができる。					
	問題	かけ算ビンゴをしよう。					
	課題	2の段、5の段を完璧に覚えよう。					
	評価規準	<関心・意欲・態度>ビンゴゲームを通して楽しんで乗法九九に親しもうとする。					
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	
	<ul style="list-style-type: none"> ビンゴゲームのやり方を知る。 2の段、5の段を唱えて確認する。 2の段でゲームをする。 5の段でゲームをする。 2の段、5の段を混ぜてゲームをする。 2の段、5の段を唱える。 	<ul style="list-style-type: none"> 始めはペアを組んで、全体でゲームをするようにする。 間違っって覚えていないか、確認するようにする。 ゲームの中で、声を出して九九を言うようにし、互いに間違いがないか意識するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 9このマスに2の段の九九の答えを書く。 九九カードをひいて、答えを言う。 答えの数があったらをつける。 たて・よこ・ななめどの列でもが3個並んだら勝ち。 5の段のビンゴゲームをする。 2の段と5の段を混ぜたビンゴゲームをする。 ペアでビンゴゲームを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 9マスの紙を準備し、分かりやすくルールの説明をする。 教師がカードをひき、九九の答えを児童が答えるようにする。 ルールがきちんと守られているか確認する。 児童どうしペアでやらせ、個別指導にあたる。 九九につまずく児童のために、九九の表を掲示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「かけ算ビンゴ」のゲームの方法を知る。 9このマスに2の段の九九の答えを書く。 九九カードをひいて、答えを言う。 答えの数があったらをつける。 たて・よこ・ななめどの列でもが3個並んだら勝ち。 5の段のビンゴゲームをする。 2の段と5の段を混ぜたビンゴゲームをする。 ペアでビンゴゲームを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> カードに書いた答えを確かめ合う。 答えを児童にも確認させる。 ペアでゲームをさせる時、答えの確認をするようにする。 	
12	ねらい	ボートの絵を見て、1つ分の大きさが3のとき、そのいくつ分かについて全体の数を求めることを通して、3の段の乗法九九を構成することができる。また、「かけられる数」「かける数」の用語を知り、意味が理解できる。					
	問題	ボートに3人ずつ乗ります。ボートの数が増えていくとき、乗れる人の数を求めましょう。					
	課題	かけ算の式と図をかき、3の段の九九を作ろう。			かけ算の式を書き、おはじきを使って3の段の九九を作ろう。		
	評価規準	<考え方>同数累加で5の段の乗法九九を構成すればよいと考えることができる。 知識・理解>乗法の式は「かけられる数」×「かける数」から成り立つことが分かる。					
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	
	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2, 3, 4 そうの時ボートに乗れる人数を求めると、答えを出すたしざんを考える。 5 そうから 9 そうまでのボートの人数を求める。 3 × 4 の式で「3 をかけられる数」、「4 をかける数」と言うことを知る。 3の段ではかける数が1ふえると、答えは3(かけられる数)ずつふえる。 2の段、5の段を唱える。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 そう分ずつ増えていく様子が分かるように、ノート書き方を指導する。 3 ずつ増えたり減ったりしていくことに気付くようにする。 かける数が1 増えると答えはいくつ増えているか絵を見て分かるようにする。 2の段、5の段の九九表を見て、かけられる数とかけられる数が分かるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 3人ずつボートに乗る。1 そう・2 そう・3 そう・4 そうのときの人数を求める。 かけ算の式を書き、絵や同数累加のたし算で考える。 5 そう～9 そうまでの人数を求める。 3 × 4 では、3 が「かけられる数」、4 が「かける数」ということを知る。 3の段ではかける数が1ふえると、答えは3(かけられる数)ずつふえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題の絵を黒板に提示し、ボートが1 そうずつ増えていくごとに、3 ずつ増えることに気付けるようにする。 絵 たし算の式 かけ算の式とまとめるプリントを準備する。 かけ算の式を言葉の式で表すと、かけられる数×かける数=答えで表されることをおさえる。 3 × 4 の「かけられる数」「かける数」をおさえ、いろいろな問題で練習し、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面をとらえる。 1 そうから 4 そうまでに乗れる人の数を順に求める。 数の求め方も発表する。 1 そう増えると乗れる人は何人多くなるか調べる。(3人) 3 × 4 では、3 が「かけられる数」、4 が「かける数」ということを知る。 5 そうから 9 そうまで順に3の段ではかける数が1ふえると、答えは3(かけられる数)ずつふえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の代わりにおはじきを用い、プリントの上においていく。 おはじきと式、求め方を関連付けて考えるように一つ一つ確かめる。 かけ算の式を言葉の式で表すと、かけられる数×かける数=答えで表されることをおさえる。 3 × 4 の「かけられる数」「かける数」をおさえ、いろいろな問題で練習し、定着を図る。 	

13	ねらい	3の段の乗法九九の表を見て、3の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えることができたり、適用したりすることができる。					
	問題	3の段の九九を声に出して言いましょう。					
	課題	3の段の九九を早く、正しく覚えよう。					
	評価規準	<表現・処理>乗法の性質を使って乗法九九を構成すればよいと考える。					
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	
	<ul style="list-style-type: none"> 「3の段の九九」という用語を知る。 3の段の九九の唱え方を覚える。 ペアやグループで九九の唱え方の確認をする。 アレイ図を見ながら唱える。 2の段、5の段、3の段の九九を唱える。 練習問題をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習から、「1つ分の大きさが3」の時を「3の段」と言うことを指導する。 「が」は1桁の時だけ入れることに気付くようにする。 順番に、逆から、ランダムに唱えられるようにする。 2の段、5の段の九九表を見ながら、答えの増え方を確認するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 3の段の九九をカードに書いて九九を唱える。 順番に唱えたり、逆さに唱えたりばらばらに唱えたりする。 ペアになって聞き合う。 3の段を使った問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> 3の段の九九の表を準備する。 何度も声に出して正しく唱えることができるようにする。 つまずいている児童に個別に指導にあたる。 順番だけでなく、逆さにも言えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「3の段九九」という用語を知る。 3の段九九の唱え方を覚える。 担任のカードを見て答える。 自分の九九カードを用いて、3の段九九の練習をする。 練習問題をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「が」を入れる場合と入れない場合があることに気づかせる。 始めは順番に唱える。次は逆から、そしてランダムに練習する。 隣同士で練習する。 「1つ分の数」「いくつ分」を意識させる。 	
14	ねらい	あめの絵を見て、1つ分の大きさが4のとき、そのいくつ分について全体の数を求めることを通して、4の段の九九を構成することができる。					
	問題	あめが1はこに4こずつ入っています。1はこ、2はこ、3はこ、4はこ、5はこでは、あめの数はそれぞれ何個でしょう。					
	課題	かけ算の式と図をかき、4の段の九九を作ろう。			かけ算の式を書き、おはじきを使って4の段の九九を作ろう。		
	評価規準	<知識・理解>乗法と積の変化の関係で4の段の乗法九九を構成できる。					
	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	
	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2, 3, 4, 5箱の時、あめの数を求める式と絵を考える。 4の段ではかける数が1増えると答えはいくつ増えるか考える。 6箱～9箱までのあめの数を求める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">4の段ではかける数が1ふえると、答えは4(かけられる数)ずつふえる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 1箱分ずつ増えていく様子が分かるように、ノート書き方を指導する。 前時までの2の段、5の段、3の段の学習を思い出していくつずつ増えているかに気付くようにする。 $4 \times 6 = 4 \times 5 + 4$をたすことに気付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4こずつはこにあめが入っている。1はこ・2はこ・3はこ・4はこ・5はこのときのあめの数を求める。 かけ算の式を書き、絵や同数累加のたし算で考える。 6はこ～9はこまでのあめの数を求める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">4の段ではかける数が1ふえると、答えは4(かけられる数)ずつふえる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 問題の絵を黒板に提示し、はこが1はこずつ増えていくごとに、4ずつ増えることに気付けるようにする。 絵 たし算の式 かけ算の式とまとめるプリントを準備する。 かける数が1増えると、答えは、かけられる数「4」ずつ増えることを、言葉の式を使っておさえていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面をとらえる。 1箱から5箱までに入っているあめの数を順に求める。 数の求め方も発表する。 1箱増えるとは何個多くなるか調べる。(4個) 6箱から9箱まで順に求める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">4の段ではかける数が1ふえると、答えは4(かけられる数)ずつふえる</div>	<ul style="list-style-type: none"> あめの代わりにおはじきを用い、プリントの上においていく。 おはじきと式、求め方を関連付けて考えるように一つ一つ確かめる。 3の段でかける数が1増えると3だけ増えたことをもとに考えさせる。 かける数が1増えると、答えはかけられる数「4」ずつ増えることを押さえる。 $4 \times 6 = 4 \times 5 + 4 = 24$ $4 \times 7 = 4 \times 6 + 4 = 28$	

15	ねらい	4の段の乗法九九の表を見て、4の段の九九の唱え方を知り、正しく唱えることができたり、適用したりすることができる。					
	問題	4の段の九九を声に出して言いましょう。					
	課題	4の段の九九を早く、正しく覚えよう。					
	評価規準	<表現・処理>4の段の乗法九九を唱えることができる。					
		学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> 「4の段の九九」という用語を知る。 4の段の九九の唱え方を覚える。 ペアやグループで九九の唱え方の確認をする。 アレイ図を見ながら唱える。 練習問題をする。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習から、「かけられる数が4」の時に「4の段」と言うことを指導する。 「が」は1桁の時だけ入れることに気付くようにする。 順番に、逆から、ランダムに唱えられるようにする。 6×4の立式の間違いをおはじきや絵で確認するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4の段の九九をカードに書いて九九を唱える。 順番に唱えたり、逆さに唱えたりばらばらに唱えたりする。 ペアになって聞き合う。 4の段を使った問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> 4の段の九九の表を準備する。 何度も声に出して正しく唱えることができるようにする。 つまずいている児童に個別に指導にあたる。 順番だけでなく、逆さにも言えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「4の段九九」という用語を知る。 4の段九九の唱え方を覚える。 担任のカードを見て答える。 自分の九九カードを用いて、4の段九九の練習をする。 練習問題する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「が」を入れる場合と入れない場合があることに気づかせる。 始めは順番に唱える。次は逆から、そしてランダムに練習する。 隣同士で練習する。 「1つ分の数」「いくつ分」を意識させる。 	
16	ねらい	練習問題を通して、2の段から5の段をより確かにすることができる。					
	問題	教科書P, 23の練習問題を解きましょう。					
	課題	正しい答えを自分の力で求めよう。					
	評価規準	<関心・意欲・態度>身につけた力を発揮し、多くの問題に取り組もうとする。					
		学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助	学習活動	個に応じた指導・援助
	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題をする。 答え合わせが終わった人からペアで九九練習をする。 発展問題をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で問題を進めていく。どうしても分からない場合は、個別指導に当たるようにする。 ペアで九九を正しく言えるかチェックするようにする。 穴あき九九をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題をする。 終わったら、ペアで九九を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> つまずいている児童には、九九の練習をするようにする。 九九の表を掲示し、いつでも振り返られるようにする。 2段～5段までの九九を1から9まで順番に、正しく言えるように個別に練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題をする。 みんなで答え合わせをする。 終わったら、ペアで九九を唱える練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「1つ分の大きさ」「いくつ分」を確かめ、おはじき操作をすることで、式を立て答えを求める。 間違えた問題はチェックし、もう1回やり直す。 	

